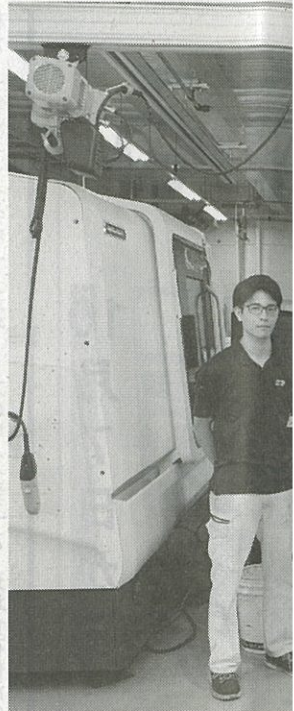


新倉庫を開設

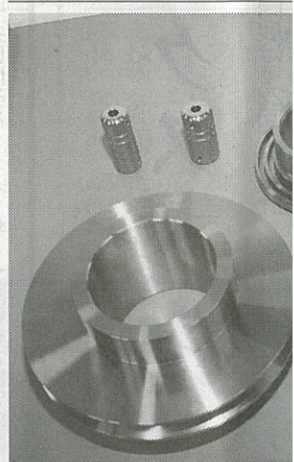
森鋼材

効率化キーワードに

森鋼材(株)(大阪市、森雄一社長)はこのほど、奈良倉庫を開設した。完成品を一時的に保管する場所として活用し、受注と生産が円滑に進むよう効率化を図る。本社のある大阪市西区九条から車で40分ほどの立地となっており、今後さらなる生産効率向上に向けて有効活用していく。



(左カ)



製造してい

同社はJIS規格アンカーボルトの製造・販売をはじめ、建築構造用の基礎ボルトの製造・加工などを行っている。アンカーボルトの納入先である建築業界とのやりとりでは、突発的に納期が後ろにずれることを考慮しておく必要がある。メーカーとしては製品が出荷できないと新たな製造に取り掛かることが難しくなるため、同社ではたびたび貸し倉庫を利用するなど対応に迫られていた。

そこで昨年より倉庫探しに着手。今年5月頃に奈良県内の鉄骨メーカーが廃業したことを機に、建屋含む土地の取得を決め、8月7日に契約に至った。奈良倉庫の敷地面積は300坪、建坪は200坪となっている。倉庫内は天井クレーン付きで、さらにカメラを設置することで、スマホ等でどこからでも倉庫内の状況がリアルタイムで確認できる仕組みも作った。

森社長は奈良倉庫の開設について、「コロナ禍の現在、一番に考えているのは“効率化”。新規の営業や売上げ向上と云うより、自社内の効率化について取り組んでいる状況。そんな中、滞留している製品は効率化の妨げとなるので、奈良倉庫を活用して更に効率良く作業できる仕組みを今の時期に準備しておきたい」と話している。

森鋼材(株)・奈良倉庫

味417-2 奈良県磯城郡田原本町佐



開設した奈良倉庫

安川電機 スマート工場でより

(株)安川電機(福岡県北九州市)は、生産現場の装置のモーション制御に欠かせないACサーボモーターの累積出荷台数が2

000万台を達成したと発表した。

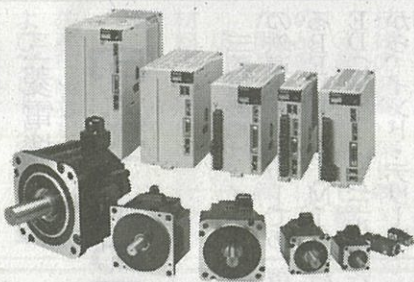
同社は1958年に原型となるミニシャーモータ(直流サーボモータ)を世界で初めて発売し、1983年にはACサーボモータをシリーズ化、1992年10月に新シリーズとなる「Σシリーズ」を発表するなど、ACサーボドライブ市場において製品を次々と開発し、FA業界の進化に貢献してきた。2012年2月にはACサーボモーターの累積出荷台数100万台を達成。2013年11月より世界最高のサーボ性能に加え、安全性のさらなる向上や環境に配慮しコンポーネント

からシステムによる付加価値の向上を目指した現在の主力機種である「Σ7シリーズ」を販売開始し、多くのユーザーに使用されている。

生産現場では生産効率や品質の向上、トレーサビリティの確保などスマート工場の実現に向けた取り組みが進められている。

同社のACサーボドライブは、従来の高速・高精度化という性能だけでなく、サーボモーター自体がセンサーとなるスマート工場を実現するために欠かせないコンポーネントとなった。デジタルデータのマネージメントのために装置内の様々なデータを検出し、リアルタイムな制御に役立てるといった機能を充実させており、この機能はさらに強化・進化を図っていく。

また昨今では省エネが求



主力機種ACサーボドライブ「Σシリーズ」

また昨今では省エネが求